

第 1 回学校活性化勝浦郡地域協議会議事録

(1) 高校再編方針について

委員

方針にもあるように勝浦高校がなくなるかもしれないという前提の中での話が進められてきていたように思います。私としては急に出された分校化については、十分納得ができていませんし、もし、この協議会の中でもう一度元に戻すという意見があれば再検討していただけるのでしょうか。

県教育委員会

地域別説明会やパブリックコメントを実施し、1年半かけて検討してきた結果を踏まえて、再編方針を定めましたので、そのことを前提として協議していただきたいと考えています。

委員

10年前園芸科と生活科だけでは学校の存続ができないと、やっとの思いで普通科が併設になったのに農業科だけになるとは残念な気持ちです。この気持ちを分かってもらって話を進めてください。

委員

農業科の進学希望率が比較的高いという状況にあると書かれていますが、定員は普通科が多くなっています。これは、どういう意味でしょうか。
また、なぜ農業を中心とする学科とされているのでしょうか。

事務局

園芸科の定員は20名と少ないのですが、今まで培ってきた教育があることと、更には意欲的な生徒も含め希望者は多いということです。

委員

県立高校の場合、県外の学生が入学する場合の条件はありますか。

事務局

県立高校のため、原則は県民が対象となっています。

県境に住む学生や学科が特別である場合、また保護者と県内に転住を予定している場合であれば入学可能です。

委員

子どもだけが来たい場合は認められないのですか。

事務局

原則は認められていません。

県教育委員会

先程の進学希望率について補足させていただきますと、6月の進学希望調査の希望者数で見ると、園芸科を希望する割合が多いということです。

委員

希望者は実際に入学した人数ではないのですか。

委員

現実には入学希望者が多い。3月の時点の倍率で記載するわけにはいかないのでしょうか。

勝浦高校に地元の生徒が入学しないというが、徳島市、小松島市、阿南市に近く、その利点を生かして近隣の市町村から入学してもらってもよいのではないか。

県教育委員会

最終的には、(定員があれば)生徒は入学しています。

しかし、本県の入試は子ども達が行きたい学校に行けるようにという方針です。6月の進学希望調査は、子ども達の希望が反映されやすいため6月の希望者数を重視しています。

委員

6月の調査は自分の実力に合わなくても行きたいと希望している子もいます。行きたい学校に行ければよいのですが、現実はそうではありません。3月の希望者数を重視してほしい。

勝浦高校に来て、個性を生かされ生き生きと活動しているのを目にしてきました。また、地域の方達が温かく、地域全体で勝浦高校を支えてくれていると感じています。

(2) 勝浦高校の現状と活性化について

委員

地産地消ということがいわれていますが、勝浦高校の生徒が生比奈小学校に米や野菜作りを教えてくれているので、食育にも非常にいい影響を与えてくれています。勝浦高校の生徒が直接児童に指導してくれることもよい教育になっています。

委員

農業科になると定員はどうなるのでしょうか。60人体制の教育なのか、1クラス20人の教育なのかによって意見も変わってくるだろうと思います。

県教育委員会

分校存続の基準が30名ですので、当然30名を上回る定員でスタートすることになります。教育内容をどうするかは協議によりますが、30名を上回る2学科でスタートすることになれば、活性化につながると考えています。

委員

活性化にはある程度の人数が必要です。

「分校化」することが条件であれば、普通科などクラスを増やす方がいいのではないかと思います。

60人から40人に減れば学校の士気が下がるのではないのでしょうか。

農業科だけで活性化できる基本的な考え方、根拠があるのなら説明してください。

委員

今も勝浦高校は、活性化に向けて対策をしてくださっています。

勝浦高校を希望する生徒が最終的には多くいることを見てほしいと考えています。

分校化がいつからかと明記されていないので、すぐにではないと理解しています。現在行っている活性化策によってどんな結果になるのか見てからでもいいのではないかと思います。

委員

これだけの類型があるのをみれば、行きたいと思う生徒が増えてくるのではないのでしょうか。

農業科に絞ってしまうのは少し早い気がします。

委員

勝浦高校が今のままでは、しょせん延命策に過ぎません。

県下で 2000 人も子どもの数が減ることを考えれば、とてもやっていける状況ではありません。

田舎で学校や役場がなくなると活力がなくなってしまう。思い切った策を取り、攻めていくしかないと考えています。

学校に魅力があり、行きたい気持ちを持ってもらえれば、地域外からも入学してくれるのではないのでしょうか。

農業教育に絞るならば、企業連携を行っていくことが重要になってくると思います。例えば、日亜化学は、阿南市や大学と連携を行っています。農業関係でも L E D の活用が可能となれば、高校教育から一緒に取り組んでもらうといった方法が考えられます。

また、勝浦町に株式会社をつくるなど、郡内の農産物を売るまでのストーリーが描けるようにする必要があります。従来のやり方では成功しません。企業という形を頭においてやるべきであると考えます。

もしくは、若い人が来てくれるよう勝浦の温かさを P R していくことが大事です。町の存続すらも危ぶまれている中、中途半端が一番いけないと感じています。

委員

普通科がなくなり分校になってしまえば、よほど魅力ある取り組みがない限り、子ども達が希望しないと思います。

子どもにどう P R するかが大事になってきます。

委員

勝浦町にある福祉専門学校に進学している生徒は、園芸科と普通科とどちらからが多いのでしょうか。

事務局

元々の定員も異なりますが、普通科からが多いです

委員

勝浦高校から医療福祉専門学校に入れるカリキュラムは組んでいますか。

事務局

それぞれの科のねらいが異なり、科によって教科の割合は異なりますが、選択科目と補習は共通で希望の生徒を対象に行っています。

ただ、きっちり絞り込むようなカリキュラムにはなっていません。

委員

私は、「産業福祉」の考え方が大切だと思います。産業の推進，仕事があることが福祉です。産業福祉のコースをつくり，専門学校に入れるような道筋を作れば，親にとっても魅力があります。

農業と福祉を関連させてコースをつくってはどうか。

委員

パイロットファームは再活用できませんか。

委員

運営できなくなり町に返還したと聞いています。それをまた活用するのは難しいのではないのでしょうか。

委員

町の学校給食センターの給食を希望する高校生に食べさせることはできませんか。特区で対応するといった策は取れませんか。

委員

地産地消という観点でもそれは大切であると思います。

委員

普通科に対する皆さんの思いがあるのはわかりますが，方針で決まっている中，これからどうしたらよいか学校としても検討していく必要があります。

教員も努力しながら農業2学科で活性化する教育内容を提供していきたいと考えています。それをこの地域協議会で協議していただき，活性化につなげていきたいと考えています。

県教育委員会

地域の子どもが勝浦高校にあまり入学していないという現状があります。なぜ地元の子どもが進学しないのか，どうすれば地元の子どもがきてくれるのかという視点からも活性化策を協議していただけたらと思います。